

国道153号豊田北バイパス  
国道155号豊田南バイパスの整備効果

効果1 環状道路の一部を形成します。

豊田南バイパス・豊田北バイパスが結ばれることで、豊田市街地を中心とする環状道路としての機能を発揮します。



効果2 交通を分離し、渋滞を緩和します。

中心市街地に目的を持たない通過交通を迂回させ、日常生活のための交通と分離することで渋滞を緩和し、定時性などが確保されます。



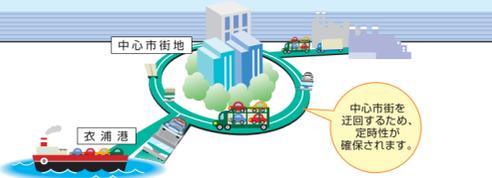
効果3 都市部・農山村部の活発な交流に寄与します。

市町村合併により都市部と農山村部が一体となった豊田市において、豊田南・北バイパスの整備により、広域ネットワークが形成され、都市部と農山村部の双方における活発な交流がこれまで以上に促進されると共に、地域振興や地域活性化さらには、豊田市全体の均衡ある発展に貢献します。



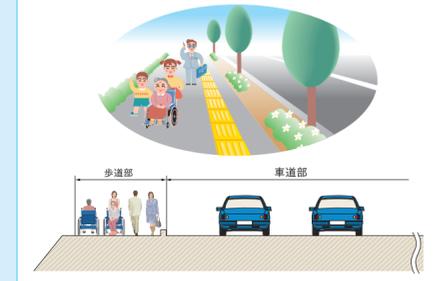
効果4 地域経済を支援します。

豊田南バイパス・豊田北バイパスが整備されることで、衣浦港へのアクセスが強化され、定時性の確保、物流の効率化を図り、地域経済の発展に大きく貢献します。



効果5 快適な歩行空間を提供します。

歩道幅員3.5m(車椅子相互のすれ違い幅+歩行者相互のすれ違い幅)を確保することにより、歩行者の快適な通行空間を提供します。

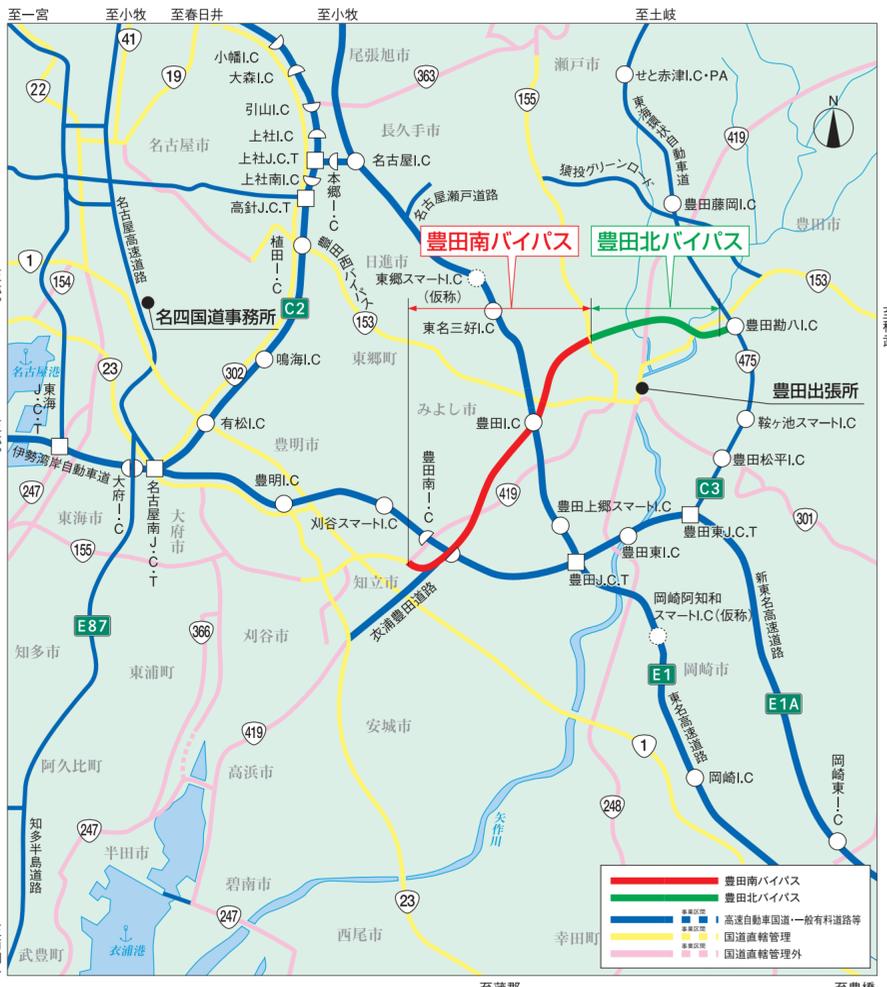


効果6 高速道路へのアクセス性が向上します。

豊田南バイパス・豊田北バイパスが整備されることにより、東名豊田IC・東海環状豊田勤ハICへのアクセス性が向上します。



国道153号豊田北バイパス  
国道155号豊田南バイパス 位置図



国土交通省 中部地方整備局  
名四国道事務所  
〒467-0847  
名古屋市瑞穂区神穂町5-3  
TEL(052) 総務課 823-7911 用地課 823-7913 計画課 823-7917  
経理課 823-7912 工務課 823-7915 F A X 811-1169  
URL https://www.cbr.mlit.go.jp/meishi/ メールアドレス cbr-meishi@mlit.go.jp  
豊田出張所 〒471-0027 豊田市喜多町6-3-4 ☎(0565)32-7581  
豊川建設監督官詰所(豊川分室) 〒441-0392 豊川市御津町西方日暮30 ☎(0533)81-2951

国道153号 豊田北バイパス  
国道155号 豊田南バイパス



国土交通省中部地方整備局  
名四国道事務所

国道153号豊田北バイパス  
国道155号豊田南バイパスの必要性

豊田外環状

豊田外環状は豊田市中心部の周辺約4km圏を環状に結ぶ道路で、国道155号豊田南バイパス、国道153号豊田北バイパス、(都)平戸橋水源線、豊田環状線、豊田安城線から構成されています。豊田市街地の拡大による都市圏の膨張と、自動車交通の都心一極集中による混雑の緩和を目的に東名高速道路、東海環状自動車道と一体となって、広域的なネットワークを形成する重要な路線です。

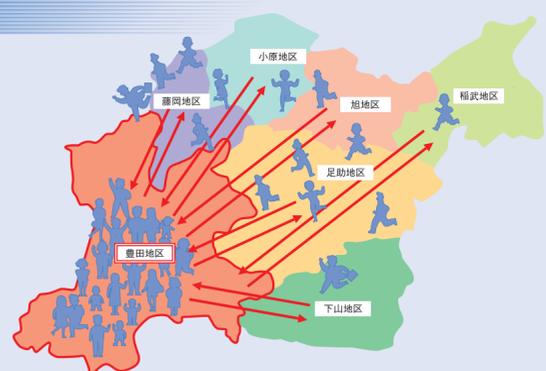


豊田外環状の役割

豊田外環状は豊田市中心部の交通混雑の緩和を図るとともに、交通安全の確保および沿道環境の改善などを図る基盤として大きな役割を果たします。

「人、モノ」の交流支援

平成17年度、7市町村(豊田市、藤岡町、小原村、足助町、下山村、旭町、稲武町)の広域合併に伴い、市域の一体性確保、交流連携の推進が必要となっております。地域核を結ぶ幹線道路の整備により、「人、モノ」の交流の活発化を図り、産業の活性化を促進します。



道路交通特性

豊田市は放射状に道路網が構築されており、中心市街地に幹線道路が入り込んでいます。豊田市における自動車交通流動は、市街地の拡大及び豊田市内に点在する工場間の交通需要の増加による影響を受けています。そのため、豊田市周辺地域の道路で交通渋滞がより一層激しい状況となっており、豊田市内には主要渋滞箇所\*が7箇所(愛知県道路交通渋滞対策推進協議会)存在しています。また、交通渋滞による損失時間は、中心市街地への交通集中により、放射状の幹線道路で特に大きくなっています。



\*【主要渋滞箇所】とは、道路の渋滞対策を効率的に進めていくため、愛知県道路交通渋滞対策推進協議会において、最新のICT技術を活用したデータや道路利用者の意見を踏まえて設定された、地域の実態や実感にあった渋滞箇所。愛知県内で711箇所選定。  
\*損失時間はH22センサー時間帯別交通量及び旅行速度より算出

# 豊田北バイパス・南バイパス 概要

## 国道153号 豊田北バイパス

### 概要

国道153号は、名古屋市区東部を起点として、西三河の北部を東進し、豊田市を経て、治部峠(長野県)を越え、伊那谷を北上し、塩尻市大門町で国道19号、20号に接続する延長約200kmの道路であり、古くは中馬街道、三州街道、飯田街道等と呼ばれていました。

その中で、国道153号豊田北バイパスは、「豊田外環状」の一部を構成し、現153号の交通渋滞の緩和、交通安全の確保及び沿道環境の改善等を目的に計画されたもので、愛知県豊田市逢妻町から愛知県豊田市勘八町に至る延長約6.8kmのバイパスです。  
平成18年度より豊田上原町から豊田市扶桑町間(L=2.9km)、平成20年度より豊田市逢妻町から豊田上原町間(L=2.8km)を直轄事業として事業化し、現在までに一部(全体6.8kmの内1.9km)が暫定2車線で開通しています。

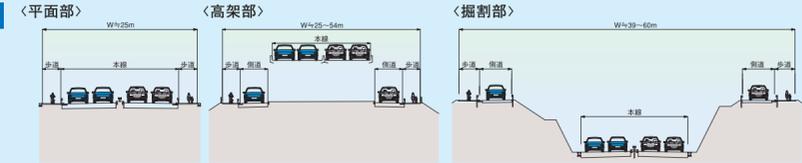
### 経緯

- 昭和60年度 都市計画決定 L=6.1km (豊田市逢妻町～同市平戸橋町)
- 平成2年度 都市計画変更 L=7.2km (豊田市逢妻町～同市勘八町)
- 平成6年度 用地買収着手
- 平成13年度 工事着手
- 平成16年度 東海環状自動車道豊田勘八ICへのアクセス道路として一部区間(豊田市扶桑町～同市勘八町)供用開始 L=1.1km
- 平成18年度 事業化 L=2.9km (豊田上原町～同市扶桑町)
- 平成20年度 事業化 L=2.8km (豊田市逢妻町～同市上原町)
- 令和元年度 一部区間(豊田市平戸橋町～同市勘八町)供用開始 L=0.8km

### 計画の概要

- 起終点 愛知県豊田市逢妻町～同市勘八町
- 延長 延長 L=6.8km(暫定供用済1.9km)
- 道路幅員 (現況) W=8.0～13.65m (計画) W=23.3～60.0m
- 交通量 T15=21,553台/12h T15=29,312台/24h(豊田市久保町3丁目)
- 構造規格 全体計画 第3種第1級 設計速度80km/h 4車線

### 標準横断面



## 国道155号 豊田南バイパス

### 概要

国道155号は、愛知県常滑市を起点として、名古屋周辺の都市を連結し、愛知県弥富市に至る延長約140kmの環状線道路であり、このうち知立市上原町～瀬戸市東交及び一宮市緑～同市首羽までの間延長41.2kmを国土交通省で管理しています。

そのうち豊田市を通過する現道155号は、幅員7m程の狭い2車線区間が多く、豊田市の中心市街地を通過するため、交通渋滞・交通渋滞が多発しています。本バイパスは、中心市街地を迂回する道路であり、交通の円滑化、物流の効率化、地域経済の発展・促進、地域内外の交流・連携等に大きな役割を果たします。現在までに一部(全体12.9kmの内9.2km)が暫定2車線または暫定4車線で開通しています。

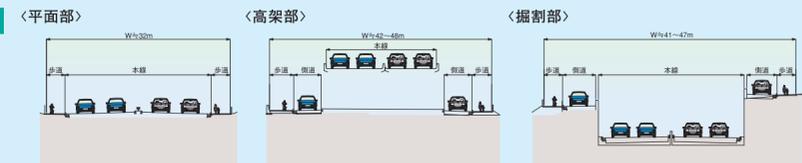
### 経緯

- 昭和39年度 都市計画決定 L=9.5km (豊田市駒場町から同市東新町)
- 昭和42年度 一般国道の指定区間(国土交通省直轄管理区間)の一部区間を編入
- 昭和47年度 都市計画変更 L=13.1km (豊田市駒場町～同市逢妻町)
- 昭和48年度 事業化
- 昭和50年度 用地買収着手
- 昭和58年度 工事着手
- 昭和62年度 一部区間(豊田市駒場町～同市堤町)供用開始 L=5.2km
- 平成2年度 一部区間(豊田市堤町～同市上丘町)供用開始 L=1.3km
- 平成7年度 起点部～東名豊田ICが国道419号とともに地域高規格道路の計画路線に指定
- 平成10年度 東名豊田IC～終点部までが豊田北バイパスとともに地域高規格道路の計画路線に指定
- 平成15年度 一部区間(豊田市上丘町～同市美山町)供用開始 L=1.6km
- 平成15年度 一部区間(豊田市生駒町～同市堤町)4車線供用開始 L=4.6km
- 平成25年度 一部区間(豊田市美山町～同市東新町)供用開始 L=1.1km

### 計画の概要

- 起終点 愛知県豊田市駒場町～同市逢妻町
- 延長 L=12.9km(暫定供用済9.2km)
- 道路幅員 (現況) 幅員W=7.7～11.5m (計画) 幅員W=20.0～47.3m
- 交通量 T15=12,483台/12h T15=17,730台/24h(豊田市清水町)
- 構造規格 全体計画 第3種第1級 設計速度80km/h 4車線(側道含む)

### 標準横断面



# 未来の豊田地域を築くバイパスです。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。承認番号 平29部環、第40号